

第3部会 第1回～6回までの議論の整理

項目	細項目	目標	現状の認識	目標を達成するためには、どんな条例にしたら良いか  条例で何を検討したらよいか	条例の具体的テーマとの関係 (○：1テーマに関係。◎：2つ以上のテーマに関係)											PI	独自・個別の法令対応等			
					目的・理念・定義・基本原則	市民の役割・権利	市長役割・権限	議会の役割権限	市民参加	行政運営	コミュニティ	人及び組織づくり	情報・場づくり	※執行機関	※評価、見直し			※プロジェクトチーム型の行政		
1 まちづくりの理念	① 心・命を大切にしたいまち	心の文化のまちづくり（2回）	文明よりも文化を。（2回）																	
		みんなが気持ちよく挨拶できるまち（2回）																		
		人間の生命尊重のまちづくり（2回）	いじめや自殺が問題になっている。（2回）																	
		人々が相互に尊重しあう（5回）	今の人々の生き方はギズギズしている。ひとりひとりの心を大切にすると同時に、お互い同士を尊重しあうことも大切。（5回）																	
	② 福祉	福祉の充実を基本に進めるまち（2回）		1 地域で支える福祉と行政の制度による福祉のうまい連携が確立できるといい。（5回）																
③ 緑	小平に今ある自然環境を減らさない（5回）		2 緑を守るのなら、農風景が残っていることを理念として掲げて宣伝すべき。（5回）																	
2 自然環境	① 水・緑・空気、光を大切にしたいまちづくり	玉川上水・グリーンロードや農風景を守り自然豊かな小平にする（1回、2回、3回）	小開発による虫喰い現象に危機感がある。（1回）	4 水、緑、空気、光を小平のヘソにしたい。（1回）																
			ライフスタイルを見直す時だ。「持続可能性」「もったいない」といった物や命を大切にすることを日本人は持っているはず。（3回）	5 市民の「環境権」について考えたい。（2回） 人間生活と自然の「共存の生存権」について考えたい。（3回） どこかで歯止めを掛けなければ。市民の権利として保障するか？（5回）																
			樹木を保存指定しても実際には切られて守られていない。（5回）	6 小平市の「輪郭」を明確にしたい。（2回）																
				7 人口の上限を宣言するのはどうか？（2回）																
				8 自然を守るために市民としてどう行動したらいいのか、どう判断したらいいのかを考えたい。（3回）																
				9 身近な自然を教材にして、小平の自然の大切さを教育する必要がある。（2回）																
			用水を止めたり流したりしている。常に流しておかないと生き物が死んでしまう。また、用水は災害時の飲み水としても使えるものだ。（5回） 用水が東京都の管理から小平市の管理下になった。だから、市として何かできるはず。（5回） 玉川上水から派生した用水がだいぶ減っている。	10 自然環境を守るため、開発時に住民に意見を聴くなど、いろいろなシステムが考えられる。（3回） 残るべくして残った自然をなぜつぶすのか。つぶすなら良く考えてから。その社会システムを考える。（5回）																
				11 用水を最低これ以上はつぶさない、という制限を決められないか。（5回）																
			農地が荒地になっていることが問題。（5回）	12 緑を増やすなら、公共施設に植樹するなどの方法が考えられる。（5回） 農業者に利益が還元させることで農地が守られる。産直の制度をもっと活かせないか。（5回）																

第3部会 第1回～6回までの議論の整理

項目	細項目	目標	現状の認識	目標を達成するためには、どんな条例にしたら良いか  条例で何を検討したらよいか	条例の具体的テーマとの関係 （○：1テーマに関係。◎：2つ以上のテーマに関係）												PI	独自・個別の法令対応等
					則	目的・理念・定義・基本原	市民の役割・権利	市長役割・権限	議会の役割権限	市民参加	行政運営	コミュニティ	人及び組織づくり	情報・場づくり	※評価、見直し ※執行機関	※プロジェクトチーム型の行政		
3  社会機構	① 福祉	地域の問題を地域で解決できるまち（1回）	高齢核家族が最近増えている。孤独死は大きな問題だ。（1回）	14 福祉を自治の中にきちんと位置づける。（1回）														
			要介護者が引きこもらないようにするため、地域での過ごし方をどう提供するか。（1回）	15 地域の福祉ネットワークをどうつくっていくか（1回）														
				16 条例によって地域福祉の土台づくりができないか。（1回）														
				17 情報の公開・共有などの視点で地域福祉を考えることが重要。（1回）														
	高年齢者、障害者、子どもが大切にされるまち（2回）	コミュニティバス運動や自転車運動は試行状態が続き、なかなか進まない。（1回）																
		「認知症コーディネーター」について、大牟田市の事例がある。有効性があるが、小平市では動きがない？（6回）	地域、行政、医療、会議施設などの連携の要の人物になる「認知症コーディネーター」について検討できないか？（6回）															
	② 防犯	安全なまち（2回）																
	③ 医療		小平市内の病院は汚く、サービスが悪い。（4回）	18 医療福祉施設をチェックする機構が必要。（4回）														
			医療行政の積極性が足りないように感じる。（4回）															
			行政が医療施設や高齢者の福祉施設などをチェックできているのか疑問だ。（4回）															
	④ 教育	すべての人が享受できる生涯教育のあるまち（5回）																
		障害のあるなしに関わらず自立して暮らせるまちにしたい（3回）	教育現場での障害児の能力開発ができていない。（3回）															
			差別的な教育環境によって教育を受ける権利を脅かされている。（3回）	19 行政職員の障害に対するモラルが低い。（3回）														
			教育委員会が「城」のようになっていて市民が意見を言えない。	20 教育委員会に市民が意見を言える仕組みをつくる。（3回）														
		「参加」のための教育を（6回）	若い世代の投票率が特に低い。民主主義が定着していない。（6回）	若い世代に地域への愛着を持ってもらいたい。そのためには「地方自治」について若い世代に教育する。（6回）														
	⑤ 子ども・青少年支援	子どもが子どもとして尊重され保護されるまちづくり（4回）	社会が高齢化して納税者が減ってしまう。また、女性も働かなければ労働力が足りない。（4回）	21 教育委員会と市民が直接対話できる仕組みがほしい。（4回）														
小平市は地区センターはたくさんある一方で、保育施設が足りない。（4回）			福祉行政が高齢者支援に偏っていて視野が狭い。（4回） 子育て支援を充実して、若い世代の減少を防ぐ必要がある。（4回）															
			23 子どもに関する事柄をまとめて、子ども条例を作ったらどうか。（5回）															
青少年の自立支援（4回）		地域の中で、中高生の居場所、小学生が安全に遊べる場が少ない。（4回）																
		引きこもりや不登校児に対する個別学習支援、就職職業訓練が足りていない。（4回） ニート、引きこもり、不登校生徒などが市内にどれくらいいるのか、見えないことが問題だ。（4回）	24 民間企業がフリーターに職業訓練する事例があるが、行政も支援すべき領域なのではないか。（4回）															

第3部会 第1回～6回までの議論の整理

項目	細項目	目標	現状の認識	目標を達成するためには、どんな条例にしたら良いか  条例で何を検討したらよいか	条例の具体的テーマとの関係 （○：1テーマに関係。◎：2つ以上のテーマに関係）											独自・個別の法令対応等
					目的・理念・定義・基本原則	市民の役割・権利	市長役割・権限	議会の役割権限	市民参加	行政運営	コミュニティ	人及び組織づくり	情報・場づくり	※執行機関	※評価、見直し	
4 コミュニティ ひとつひとつのつながり	①人材活用	地域の人材を有効活用できるまち（2回、6回）	小平市内に団塊の世代が1万人くらいいるはず。なのに、市民活動の参加者は少ない。姿が見えない。（1回） 若い世代だけでなく、退職者のニートが問題になるのではないかと元氣な人はどんどん地域に出てきてほしい。	28 高齢者や定年退職した世代、現役世代などいろいろな人が地域に参加するようになるにはどうしたらいいか。（1回）												
			大開の世代の人材を活用する具体策は現在、顕著な動きがない。	団塊の世代から地域貢献人材を確保する具体策を実施。誰が主体となるか？早稲田との連携は？（6回）												
		地域で何かやりたい人がチャレンジできるまち（2回）														
	②地域の力	地域の「教育力」を活かした協働的な教育のできるまち（2回）	教育の現場で、団塊の世代のちからを教育や子育てに活かすことが課題だ。（1回）	26 行政による公教育では救えない子どもの心のケアにどう関わられるかなど、行政では担えない部分を条例でどう踏み込むか。（2回）												
		市民ができることは市民でやる（4回）	市民でできることは市民がやらなければ金がかかる。（4回）	27 補完性の原理をうたう。行政は、市民による公共サービスを支援する役割を担う。（4回）												
	③新しい共同体づくり	新しい共同体づくりを（3回）	医療、健康問題は、まず予防から。心の健康が大切だ。（4回）	28 介護や医療を必要としない元氣な高齢者を増やすために、コミュニティづくりを充実させたい。（4回） NPO支援など、コミュニティに力をつけられるシステムを考えたい。（3回） 大学や公民館などと共同で取り組む生涯教育など。（3回）												
			ゴミの処理など地域の問題を解決する新しい共同体が必要。（3回）													
		安心安全を核にしたネットワークづくり（5回）	個人情報保護の観点から地域の名簿が作れないなどの問題が起こっている。また、詐欺と疑われて、電話しても出てくれない、訪問しても応じてくれない。（5回）	29 地縁型のコミュニティの必要性は、災害時にこそ発揮される。災害対策をキーにコミュニティづくりに切り込んでいけないか。（5回）												
			デイサービスの現場から。閉じこもりの人がいることを地域の人がNPOに連絡してくれた例がある。そういうことがもっと増えるといい。（5回）	30 昔の「隣組」のような制度を作れないか。市民、行政、議会もみんなが手を組んで取り組まなければ実現しない。（5回）												
				31 個々の動きを横につなげていくことでもっと大きなことができる。ひとつのテーマに対していろいろな主体が関われ、繋がっていけるような仕組みづくり。（5回）												
		公民館を成人教育の核に（4回）	「市民としての生き方」を学校では教えてくれない。（4回）	32 市民が市政に参加しコミュニティで活動するための成人教育に公民館を積極的に利用するといいいのでは。（4回）												
		自治会町内会を地域活性化の核に（4回）	隣近所の触れ合いを活発化するにはどうしたらいいか。（4回）	33 自治会町内会や連合会を核にコミュニティを活気付けたらどうか。（4回）												
		商店街を準公共と位置づけたまちの活性化（3回、4回、6回）	市民が求める商店街の存在意義は？小平らしさを創出するには？（3回）	34 地域の経済発展だけでなく、まちを充実させ小平らしさをつくる、その基本的な仕組みをこの条例で提供したい。（3回）												
			商店街は上手く活かせば“準公共”になりえるのではないかと。（4回）	35 コミュニティの拠点としての商店街のあり方を考えたい。（4回）												
			コミュニティバスと地域の活性化、商店街を一括化した複合型モデルで元氣な高齢者を増やしたい。（4回）													
			商店街はもっと市民とコミュニケーションをとるべき。話し合う場、交流がない。（4回）													
商店街に対する市の支援が単一的で根本的な解決にならない。（4回）																
空き店舗を活用した「街の駅」を展開する事例は、鹿沼市や都内でも増えつつある。（6回）			市民主導型のコミュニティサイトとして推進を図る。（6回）													
都薬用植物園を存続・民営化し地域活性化の資産としても活用（6回）	地味な存在で近隣の住民を除いては親しみのある身近な存在ではない。	「商業振興条例」を自治基本条例制定後のモデル的な条例にするべき。名称は「地域活性化条例」にすべきか？市の機能のあり方が課題。（6回） 市民の目線での企画の推進と、民営化受け皿組織の検討が必要。（6回）														

第3部会 第1回～6回までの議論の整理

項目	細項目	目標	現状の認識	目標を達成するためには、どんな条例にしたら良いか  条例で何を検討したらよいか	条例の具体的テーマとの関係 （○：1テーマに関係。◎：2つ以上のテーマに関係）											独自・個別の法令対応等	
					目的・理念・定義・基本原則	市民の役割・権利	市長役割・権限	議会の役割権限	市民参加	行政運営	コミュニティ	人及び組織づくり	情報・場づくり	※執行機関	※評価、見直し		※プロジェクトチーム型の行政
5 市民の主体性	① 市民が主体	市民の責務としての参加（4回）	大勢の市民が市政に関心を持ってもらいたい（2回）	36 市民が主体なら、市民自らが責任や負担を負うことが重要。どこまで負えるのか自分達で考える。（1回、2回、3回）													
			市民も、市職員もやる気を持ってほしい。（2回）	37 地域や市政に参加することを市民の義務として条例に位置づけるのは難しいだろうか？（4回）													
			財源だけでなく、サービスの質が足りなくなっている。だから市民参加が必要だ。（3回）	38 “市民総会”を設置するなど。この条例で市民参加に対する意気込みを示したい。（4回）													
			トップダウンの行政運営に限界がきている。市民が参加しなければならない。（3回）														
			市議会選挙などの投票率が低下している。（3回）														
		市政に対する市民の心構えを律する（2回）	市民の多くは市政などの公共問題に関心がない。自分の関わる小さな問題と社会、世界との関係を学ぶことが必要。（2回）	39 市政や公共への関心をいかに盛り上げるかが条例づくりの一つの課題ではないか。（3回）													
			市民の自発精神を高めることが必要。（3回）														
		戦略的な市民活動を（3回）	市民活動を展開する際に市政をどう変えたいのか戦略的に考えるべき。（3回）														
		市民が自ら決めることができるまち（2回）	市民による行政のコントロールを可能にしたい。（2回）	40 行政に注文できるシステムを保障する条例にしたい。（2回）													
				41 みんなで決めたルールを守れるしくみを考えたい。（2回）													
	②参加意識	市政への参加、関心を高める（3回）	地域と関わるための、地域への関心を高めるための情報提供が課題だ。	42 市民の当事者意識を高めるように地道にPRすることが必要。（3回、4回）													
			市報などを全戸配布しているの見ない人がいる。（3回）	43 この条例が「空手形」ではなく、皆が集まれば世の中を変えられるということをもっとPRする。（4回）													
			若い世代の投票率が特に低い。民主主義が定着していない。（6回）	若い世代に地域への愛着を持ってもらいたい。そのためには「地方自治」について若い世代に教育する。（6回）													
				この条例づくりにも若い世代の参加が必要。PTAなど今ある団体のネットワークは使えるので、そのような組織にこちらから出向いていくことがまず必要。（6回）													
	る③ 権参加 す	参加する権利の保障（4回）		44 障害の有無によって市政への参加に制限がないよう、参加したい人が参加できる仕組みであることが重要。（4回）													
			権し④ 利な参 い加	積極的に参加しない人もサービスや豊さを享受できるまち（2回）	自治会活動に強制的に参加させられてみて、「参加しない権利」というのは重要だと思った。地方に行くと参加しないことによって差別的に扱われることがまだある。（5回）	45 参加しない権利もある。参加しないことによって不利益をこうむらないことが重要。（4回） 参加する、しないに関して、公平性を保つこと。（5回）											



第3部会 第1回～6回までの議論の整理

項目	細項目	目標	現状の認識	目標を達成するためには、どんな条例にしたら良いか  条例で何を検討したらよいか	条例の具体的テーマとの関係 （○：1テーマに関係。◎：2つ以上のテーマに関係）											独自・個別の法令対応等
					目的・理念・定義・基本原則	市民の役割・権利	市長役割・権限	議会の役割権限	市民参加	行政運営	コミュニティ	人及び組織づくり	情報・場づくり	※評価、見直し ※執行機関	※プロジェクトチーム型の行政	
6  行政運営への参加	係① 市民と行政の信頼関係	開かれた、透明性の高い行政（2回）	ルールにのっとって市民として意見を出しているのに、それがどう反映されたのか、されなかったのかわからない。（2回）	46 市民と行政が自由に意見を交換できる場をつくりたい。（2回）												
				47 市民の意見や提案について、行政への反映度や反映状況が明示されるしくみを作りたい。（2回）												
				48 行政と市民が信頼関係を持って市政運営が行われるための枠組づくりをしたい。（2回）												
			「議会の傍聴者が3人だった」と言う議員がいたが、関心が無いのではなく、参加しにくい時間帯であるとか、議論が分かりにくいなどの問題点もあるのではないか。（5回）	49 「なぜ、参加者が少ないのか？」を考えることが重要。市民が関心を持てる状況になっているのか？（5回）												
				50 参加できるしくみがあれば、おのずと市民の主体性が引き出されるのではないか。（5回）												
	②情報公開	市政運営の全過程でわかりやすく情報公開を（4回、6回）	市民がサービスを担っていくためには、市民の行政情報を共有しなければならない。（3回） 情報公開請求するまでもなく、もっと情報を出すべき。（4回） 行政の計画や指針がわかりにくい。たとえば「福祉のまちづくり」という言葉が具体的に何をさすのか、イメージしにくい。（4回）	51 市民が行政情報をどのように共有していくか。（3回） 説明責任と情報公開を明確に行政の義務として位置づける。（3回） 障害者も情報を簡単に得られるように市のＨＰのアクセシビリティを改善する必要がある。（4回） 全ての事業ごとに人件費を含む予算決算を公開する。（4回） パブリックコメントなどで集まった市民の意見を全文公開する。（4回） 全条例、要綱、計画などの体系図と解説を公開する。（4回） オンブズマン（パーソン）を設置するなどして、情報公開、情報共有が適切に行なわれているかチェックする機関があるといい。（4回）  市の特別会計および特別公益法人の財政情報の完全公開を。小平独自の情報公開を。それにより市民の関与度の向上。（6回）												
			広報は「良いことだけを知らせる」、情報公開は「隠したい情報もだす」、情報提供は「タイミングよく出すべきものをだす」。情報公開と情報提供が大切。（5回）	52 努力しなければ情報が得られない、というのではおかしい。（5回）												
				参加するべき、という「べき論」を言ってもはじまらない。分かりやすい行政情報の提供が重要。（6回）												
	へ③ の政策参加立案	政策立案過程への参加（4回）	今の行政のやり方はアリバイづくりになっていないか。（3回）	53 自然環境を守るため、開発時に住民に意見を聴くなど、いろいろなシステムが考えられる。（3回）												
				54 行政への政策提案制度をつくる。（4回）												
				55 市民による条例づくりを行政が支援する仕組みをつくる。（4回）												
				56 市長のマニフェストにないような重要な政策を行なう時には住民投票を実施する制度をつくる。（4回）												
	④政策評価への参加	市民による直接的なチェックができること（4回）	企業に対する株主のように市民を捉えたらどうか。（4回） しかし、民間企業の考え方で行政や公共を動かそうとするのは間違っている。（4回）	57 公正で、直接的参加できる社会、制度をつくりたい。（4回）												
行政に緊張感を持って仕事をしてもらいたい。（4回）			58 常設的な「市民会議」を設置するなどして、「第三者機関」ではなく市民がチェックしたい。（4回）													
福祉など、採算の採れない仕事でも効率を考えないで仕事をしてはいけない。（4回）			59 行政の仕事がマンネリ化していないか、楽をしていないか市民がチェックしたい。（4回）													
市長や議会を評価する視点を市民が持つべき。（3回）			60 財政の構造や仕組み、あり方を分かる市民、職員、議員を増やす。（3回）													
				61 市民が組織しないと市民の意見が通らないのではないか。「市民会議」を市の機構の中に組み入れる。市民も責任を持って市政に関わっていくことを明確に位置づける。（5回）												
ク⑤ の市長へ	市政の硬直化を防ぐ（4回）		62 市長の多選を禁止または自粛してもらいたい。（4回）													
			63 市長交代ごとに徹底的に監査する。（4回）													

第3部会 第1回～6回までの議論の整理

項目	細項目	目標	現状の認識	目標を達成するためには、どんな条例にしたら良いか  条例で何を検討したらよいか	条例の具体的テーマとの関係 (○:1テーマに関係。◎:2つ以上のテーマに関係)												PI	独自・個別の法令対応等
					則	目的・理念・定義・基本原	市民の役割・権利	市長役割・権限	議会の役割権限	市民参加	行政運営	コミュニティ	人及び組織づくり	情報・場づくり	※執行機関	※評価、見直し		
	⑥教育委員会	教育委員会に市民が意見を言えるしくみをつくる（4回）		64 教育委員会と市民との懇談会を定例化できないか。（4回）														
	⑦審議会、検討委員会	審議会、検討委員会のしくみを変える（3回、4回）	教育関係の政策についての検討委員会に当事者の親が選定されていない。（3回）	65 公募委員の選び方のルールを変える提案をしたい。たとえば、行政だけでなく、市民も選定できるなど。（3回、4回） ⇨実際は難しいのではないかと「選定する市民」をどのように選定するのか？（4回）														
			障害児支援に関する計画の数値目標を立てる検討委員会が年に5回しかもたれない。そんなに簡単に枠組みが固められてしまっているのか。（4回）	66 市民参加の検討委員会の回数、委員の選定のしくみについて市民が意見を言えるようにしたい。（4回）														
		審議会、検討委員会において市民が傍聴だけでなく意見を言えるようにする（4回）	審議会、検討委員会に、市民は傍聴しかできず、意見を言うことができない仕組みになっている。（4回）	67 各種審議会委員との懇談会を定例化できないか。（4回）														
7 議会	①議会への参加	議会が市民の意見を聴くしくみをつくる（3回）	議会は行政をチェックする機能を果たしているのかどうか？（3回）	68 「行政基本条例」と位置づけ、市民と行政の関係だけ規定し、議会は除いた条例にしたらどうか。（2回） ⇨行政運営を変えようとしたら議会についても踏み込んでいく必要がある。（3回）														
			市長のマニフェストに「35人学級」とあったので投票したのに、議会がその案を否決してしまった。 議会の答弁を見ていると、意見が出されても「今後検討します」と流されてしまう。説明責任を果たしていない。（4回）	69 議会が市民の意見を聴く場、仕組みをつくる。（3回、4回） 議事に口を挟むことはしないが、閉会後に市民が意見を言う場があってもいいのではないかと。（4回） ⇨しかし、議会は市民の代表なのだから、市民からあえて意見を言うのはおかしい、という反論が出るのではないかと。（4回）														
	②議会改革	議会が自ら変わるきっかけをつくる（4回）	自治体議会の弱体化は進んでいると思う。議会が自ら変わろうとしなければ変わらない。（4回） 行政は前例がないと新しいことに手を付けにくい。議会から変えていけばいいのではないかと。（4回）	70 自治基本条例とは別に、「議会基本条例」を議会に作らせるように規定したらどうか。（4回）														
			「議会の傍聴者が3人だった」と言う議員がいたが、関心が無いのではなく、参加しにくい時間帯であるとか、議論が分かりにくいなどの問題点もあるのではないかと。（5回）	71 なぜ傍聴者が来ないのか、議会の側からも考える必要がある。 論点を明確にする、土日や夜間に開催する、インターネットやケーブルテレビなどで生中継するなど。（5回） いろいろな形で関われるように方法をとることが大切。（5回）														

第3部会 第1回～6回までの議論の整理

項目	細項目	目標	現状の認識	目標を達成するためには、どんな条例にしたら良いか  条例で何を検討したらよいか	条例の具体的テーマとの関係 (○:1テーマに関係。◎:2つ以上のテーマに関係)													独自・個別の法令対応等	
					目的・理念・定義・基本原則	市民の役割・権利	市長役割・権限	議会の役割権限	市民参加	行政運営	コミュニティ	人及び組織づくり	情報・場づくり	※執行機関	※評価、見直し	※プロジェクトチーム型の行政			
8  行財政	①財政		箱モノの数ばかりを自慢せず、どれだけ多くの市民が公共施設を有効利用できているかという視点で評価すべき。(2回)																
		年配者にも子どもにも分かりやすい財政(6回)	市民作成の財政白書はない。現在、提言の会でチャレンジを開始している。	市民手づくりの財政白書の作成を検討できないか?市民とくに若手、学生、児童が有効活用できるような。(6回)															
					年配者、子どもにも理解を得るための市財政コンシェルジュが必要。(6回)														
		新組織、新基準、情報公開による開かれた市民本位の予算運用(6回)	市の継続助成金、補助金等、現状では慣性と惰性で出費されている事例も少なからずありそう。	助成金、補助金について、審査委員会の市民代表(一定期間ごとの改選と情報公開の徹底)による再審査と決定を。(6回)															
	②行政の組織	市民と行政の複合型モデル(2回)	行政の組織がタテ割りで、地域の問題を上手く解決できないことが多い。(2回)	72 タテ割り行政では片付かない問題を解決できるしくみを考えたい。(2回)															
				73 行政のあり方を根本から変えたい。タテ割り行政の仕事から抜け落ちていることは何か?(5回) タテ割り組織は上から降りてきたものを実行するだけ。そうではなく、プロジェクトチーム型の組織にして、総合的な仕事をする必要がある。(5回) プランとチェックは「複合型」でないと対応できない。(5回)															
9  条例		最高法規性をもつ条例(2回)																	
		「地方自治の本旨」に基づいた条例(2回)																	
		美文でない条例(2回)			74 実のある条例にしたい。(2回)														
		分かりやすい条例(2回)			75 基本理念を分かりやすく説明したい。(2回)														
		運用結果などの評価と条例の見直し(4、5回)			76 この条例を期限付きで見直しすることを定めたい。作るときと同じように市民の組織が評価見直しをするようにしたい。(4回) この条例の運用状況と成果を評価する規定を設けておく。(5回)														